

【附表】耐震診断の評価と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

平成 27 年 12 月 11 日国住指第 3435 号別表抜粋

耐震診断の方法の名称		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I (地震の振動及び衝撃に 対して倒壊し、又は崩壊す る危険性が高い。)	II (地震の振動及び衝撃に 対して倒壊し、又は崩壊す る危険性がある。)	III (地震の震動及び衝撃に 対して倒壊し、又は崩壊す る危険性が低い。)
1	指針第 1 第二号に定める建築物の耐震 診断の方法	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
2	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
3	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐 震診断基準」に定める「第 2 次診断法」 及び「第 3 次診断法」(1990 年版)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{s0}$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D$ $\leq 1.25$
				$1.25 < C_T \cdot S_D$
4	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐 震診断基準」に定める「第 2 次診断法」 及び「第 3 次診断法」(2001 年版)	$I_s / I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{s0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U$ $\leq C_{TU} \cdot S_D$
5	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第 2 次診 断法」及び「第 3 次診断法」(1997 年 版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot G \cdot U$ $\leq C_T \cdot S_D$
6	一般財団法人日本建築防災協会による 「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物 の耐震診断基準」に定める「第 2 次診 断法」及び「第 3 次診断法」(2009 年 版)(鉄骨が非充腹材の場合)	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot$ $G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$ $\leq C_{TU} \cdot S_D$
7	「屋内運動場等の耐震性能診断基準」	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.7 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$